

無駄なこと

東北大学医学部後援会会長
舟山 真人

今の日本には無駄が多いということです。そして、少しの無駄も許さない一群が人気の的となりました。彼らの鑑定ポイントは「今使えるのか」それとも「今使えないのか」。使えなければ、有無も言わず不要の認定を授けるらしく、映像に映された姿をみると、無駄だと言われた仕事は、なにやらその仕事を行っている人の存在そのものも否定されているようで、お気の毒でした。といっても何をしているのかわからない組織も実際に多くあるらしく、官僚化した社会にはささやかな「革命」が必要なことも事実です。

さて、無駄な仕事はともかく、私たちが生きていく上で、ある程度の無駄はつきものです。皆さんの中には「無駄な」ことを学生時代、勤めて間もないころ、そして今もと、いろいろ行っている方も多いのではないのでしょうか。もちろん自分では無駄とは思ってはいなくても、家人含め他人がみればどうでしょうか。たとえば趣味の世界はそれに興味のない人にとっては無駄そのものです。それに費やす時間はともかく、場合によっては湯水のようにお金がかかります。しかし、それによって新たな人との出会いがありますし、また、疲れた心の癒しになりますので、当人にとってはむしろ必要なことなのです。あるいは今は無駄に思えても、将来さまざまな有益ごとになることも少なくありません。

さて、今年度入学の学生さんも早1年、後援会発足の時のご子息・ご息女はもう3年目になります。早速心配事が起こっているかもしれませんし、未だに両親には話せず悩んでいる最中かもしれません。学生の間に世界を見てくると心に決め、積極的に(?) バイトし留年する子は親御さんも苦笑いでしょうが、ネットゲームにはまっている子、抱いていた理想とは違うと転学部・転学を考えている子、なんだかやる気が失せている子、そして赤点の数がすでに許容範囲を越えてしまった現状。大学も最近は学生支援の体

制が充実し、そういった学生さんには教務担当の先生が面談をしていますし、場合によっては、その結果を親御さんに連絡することもあるそうです。お子様からの告白よりも先にそのような状況を突然お知りになったとき、皆さんはどうされますか? 「折角、大学に入ったのにどうしてこんな無駄な…」 「これ以上あなたには無駄な時間の余裕が…」 「1年間の学費が無駄になって…」

もちろん親御さんにとって、無事卒業し、就職してくれるのがなりよりですし、多くのお子様がそうでしょう。しかし、毎年少なからずの学生さんが自分の生きる道に悩んでいることも事実です。そのサインの一つが、勉強が手に着かない、ということかもしれません。でも多くの先輩がそれを乗り越え、かつあるとき悩んだことは決して無駄ではなかったと話してくれます。多分、将来、懐かしい思い出話となることでしょう。といっても、現状を直ちに解決する特効薬はありません。ただ子供と同じように悩み、いろいろ話を聞いてあげることしかできないかもしれませんが、それもまた親の役目であろうと思います。

なお、こういった学生さんの中には精神的なストレスが原因の場合があり、早期に専門家のアドバイスが必要なものもあります。

医学部では昨年度から『学生なんでも相談室』を設けており、親御さんの方から相談も受け付けております。[詳細については、後援会報 No.4 に紹介しており HP で閲覧できます。] お子様のことでご心配のときは、ぜひご利用ください。

光のページェント



写真提供：仙台市観光交流課
定禅寺通と青葉通のケヤキ並木が、数十万個のイルミネーションに包まれ、幻想的な光の回廊を演出。毎年12月12日～31日まで開催される。



医学部建物全景

— 最新の研究装置紹介 —

オートプシー・イメージング (Ai) について

東北大学大学院医学系研究科 画像解析学分野

齋藤 春夫

東北大学医学系研究科では、医学系研究科の執行部、事務職員など関係各位、並びに宮城県警の御支援をいただき、法医学分野と保健学専攻放射線技術科学コースとの協力の下、2009年(平成21年)5月よりCTを中心とした法医解剖前画像診断(Aiの一部)を開始しました。

約1年で150例を経験し、2010年(平成22年)4月からはAiセンターを立ち上げました。画像による死因を含めた異状所見診断は、死体画像というある意味「未知」なものであることから、解剖を行わない検案事例は扱わず、剖検前画像診断として運用しています。具体的には診療放射線技師が死体の各条件にあわせてCT等を撮影、放射線科医がその場で読影、直ちに結果を法医に連絡、それをもとに法医が解剖計画を立て施行、実際の剖検所見を放射線スタッフにフィードバックというシステムで運用しています。そして実務者間だけでなく、その他の医療関係者を含めての討論と若手スタッフの教育の場として月例のAiセミナーを設け、撮像技能、診断能力などの向上を図っています。

オートプシー・イメージング (Ai) とは、患者さん等が亡くなられたあとに、CT、MRI、超音波検査といった画像診断を行い、その結果をより正確な剖検・検案につなげ、死因の解明に役立てようとするシステムで、1999年に放射線医学研究所の江澤氏らによって提唱されました。海堂 尊(江澤氏のペンネーム)氏の「チームバチスタの栄光」など一連の著作や映画などでも紹介され、一般にも広く認識されてきています。平成21年3月の日本医師会のアンケート調査において、およそ36%の医療機関が患者死亡時になんらかの画像を撮影したことがあり、Aiはかなりの広がりを持って行われています。



Aiに使用している8列のマルチスライスCT装置

Aiが、死因の究明に有用であった症例も報告されています。また、医療関連死の死因究明にあたっては、いわゆる医療事故調において、解剖に加えて新たな死因究明方法の補助的手段としてAiが組み入れられる可能性が示唆されています。

しかし、これまでのところAiの取り組みは各病院でばらばらに様々の診療科の医師により行われており、統一的な撮影法、読影に必要な知識の確立・普及、診断の精度管理などは今後の課題として残っています。東北大学ではAiの医学的有効性に関する検証をすすめるとともに、Aiを取り扱う医師・診療放射線技師など医療従事者が

直面する諸課題に指針を与え、Aiの正しい発展に貢献する必要性を感じ、Aiセンターを設置しました。宮城県における死亡時医学検案の情報を充実させることで、社会に貢献するとともに、Aiの課題の解決にも寄与し、正しい普及に貢献したいと考えています。



☆月例のAiセミナーのパンフレット(法医学分野作成)より

☆御遺体は法医解剖室で専用の袋に入れ、袋ごとCTを撮像しています。

2010年(平成22年度)医学部オープンキャンパスを開催した

東北大学医学部オープンキャンパス教員実行委員会

委員長 小野 栄夫

保健学科担当 清水 律子

平成22年7月28日(水)、29日(木)の2日間、東北大学医学部オープンキャンパスが盛大に開催されました。

毎年、全国的に好評を得てきたイベントですが、今年は医学科、保健学科の学生実行委員が高校生のニーズを考えて企画を練り上げました。広報室、グローバルCOE企画室の皆様にも多くのご協力頂きました。その結果、参加者数では過去

最高となる4,742名(前年比10%増)を迎え、成功の裡に閉幕しました。

◎医学科では、大学講義・実習が体験できる「模擬講義」、「実験実演コーナー」、「救急体験コーナー(写真1)」を行い、連日盛況でした。「教科書展示コーナー」では、熱心に教科書に

見入る高校生の傍ら、医学生や教授が積極的に語りかけるなどのサプライズもありました。

「医学科案内ツアー」では、研究現場の見学、最新の研究機器の紹介の他に、病院にある産学連携施設の見学も行われ、医学を支える分野を垣間見ました。医学生による解説付きの「ビデオ上映コーナー」、高校生のどんな質問にも答えた「学生による入試体験・学生生活アンケートコーナー」、「大学院生・研究医と語るコーナー（写真2）」では、医学生、大学院生、研究医の先生をより身近に感じることができたのではないのでしょうか。



写真1 (救急体験)



写真2 (大学院生・研究医と語る)

◎保健学科では、「在校生による入試体験や相談コーナー」の他に、新たに「保健学科案内ツアー」と「卒業生と語ろうコーナー（写真3）」の2つの企画を新設し、在校生や卒業生とのふれあいを通して、総合的保健・医療専門職を志す保健学科の方向性を理解してもらいました。また、教員の視点から高校生の持つ疑問や不安の解消にもあたりました。同時に、看護学、放射線技術科学、検査技術科学の三専攻が、それぞれ独自の趣向を凝らし、個々の専門分野について紹介をしました。

☆看護学専攻では、8つの参加型模擬講義を開催しました。どの会場も盛況で、実際に赤ちゃんのケアの方法（写真4）や高齢者疑似体験など、保健・医療の観点から人間の一生をみつめるこれらの講義に、参加者は目を輝かせていました。



写真3 (卒業生と語ろう)



写真4 (赤ちゃんのケアの方法)

☆放射線技術科学専攻では、2つの「学生が魅せるおもしろデモンストレーション」を企画し、普段の勉学の成果を披露しました。参加者は、超音波画像診断装置や3D映像の説明を聞きながら実際に体験をすることができ、不思議な世界に魅了されていました。

☆検査技術科学専攻では、4つの実習体験コーナーを企画して、多くの参加者の興味と注目を集めていました。病院で行われている検査が実際にどのように行われるかを丁寧に紹介し、聞いたことはあるけれどよくわからない病院の検査、そのような疑問を解消することができたと思います。

好天に恵まれた暑い2日間でした。高校生が入場者に配布した「オープンキャンパスうちわ」を扇ぎながら学内を闊歩する光景の中に、明るい医学部の未来を見たような気がします。



最後になりましたが、医学部教員、学生、ならびに職員に代わり、医学部後援会からのご援助に心より感謝申し上げます。

〔高校生アンケートから
(抜粋)〕

- 医学部生との交流があっという間だと思った。実際の医学部での生活が分かって、モチベーションがあがりました。来年も実施して欲しいです。(宮城・高2)
- 初めてオープンキャンパスというものに来て、本当に驚きと感動でいっぱいでした。とても新鮮で楽しかったです。(岩手・高2)
- 放射線技術科学専攻の大学生の皆さんがとても優しくかったです。(青森・高2)
- おもしろかったので、来年もまた来たいです。(宮城・高1)



第21回東北大学医学祭を開催しました

第21回医学祭実行委員会委員長
医学部医学科3年

藤原 翔

去る、10月23日(土)、24日(日)の2日間、東北大学星陵キャンパスにおいて第21回東北大学医学祭を開催いたしました。

医学とは皆さまの身近にあるべきものではありませんが、医学や医学部はなかなかその実態がわかりにくいものだと思います。医学祭は3年に1度ではありますが、ご来場いただき



吉岡 秀人先生

た皆さまが直接『医学』、そして『医学部』に触れることができ、『医学とは身近にあるべきものなのによくわからない』というギャップを埋めることができる大切な行事であると私は考えております。

第21回東北大学医学祭は、2日間で全国各地から約1,500名の来場者を数えました。ご来場いただいた皆さまに向け、医学部の様子や学習内容、その成果を公開・発表することで医学を少しでも身近なものにしていきたいと、すべての企画から運営までを学生自身で行いました。企画内容は皆さまの日常に関わりの強いものを中心に、医学祭からお帰りになった後でも役立つようにと考えました。日々試行錯誤を繰り返し、救急講座や介護教室、実験・模擬講義、胃がん・乳がん検診セミナー、パネル発表など様々なイベントを企画しました。

また、東北大学附属図書館医学分館や史料館のご協力のもと、東北大学在学中の魯迅のノートや解体新書といった大変貴重な所蔵を展示し、そこへ現在の医学生のノートや教科書を並べて皆様にご覧いただきました。

医学祭恒例の講演会も2日間にわたって行われ、1日目にはミャンマーで無償の医療活動を続け、テレビ番組などにも



川島 隆太先生



羽生 善治氏

数多く出演されている小児外科医の吉岡 秀人先生、2日目には棋士の羽生 善治氏と東北大学加齢医学研究所教授の川島 隆太先生をお招きしました。

会場となった良陵会館は両日も満員となり、盛会のうちに医学祭を終えることができました。

最後になりましたが、本医学祭の開催にあたりご支援・ご協力を賜りました皆さま、ならびにご来場いただいた皆さまに心より御礼申し上げます。



第4回リトリート大学院生研究発表会について

第4回リトリート大学院生研究発表会
実行委員会

去る、平成23年1月15日(土)に東北大学片平キャンパス「さくらホール」において、医学系研究科大学院合同運営委員会主催の『第4回リトリート大学院生研究発表会』が、医学部後援会の後援により開催されました。



この発表会は、大学院生が中心となって、リトリートの準備から運営まで自主的に行いました。リトリートには、大学院生、医学部学生、教員を含む総勢138名が参加しました。今年は、口頭演題20題、ポスター演題54題という数多くの演題発表があり、大変活発な研究発表会となりました。



当日は、山本 雅之医学系研究科長の開会の挨拶に始まり、

午前には、口頭発表の第1部・2部、また、ランチョン形式で第3部が行われました。午後は、ポスター発表と口頭発表の第4部が行われました。



全演題終了後、懇親会と授賞式が行われ、最優秀演題賞など7部門で表彰がありました。一日を通して充実したプログラムが生まれ、『交流と議論による研究の進化』というテーマのもと、学生・教員を交えた白熱した議論が繰り広げられました。



なお、医学部学生は、2名がポスター発表を行い、その活躍に対して医学部後援会から特別演題賞が贈られました。

SAP プログラムに参加して — 英語に浸った4週間（平成22年2月21日～3月20日） —

医学部医学科5年
塩川 紘花



SAP (Study Abroad Program) は、海外留学を希望している学生や、将来海外で働くこと、英語での発表や論文を書くことをめざす学生が、実際に英語圏の大学に必要な英語能力を身に付けることを目的としたプログラムです。

カリフォルニア大学サンディエゴ校で行われ、授業聴講、エッセイを書く訓練、現地の大学生と話し合う授業など、留学を見据えた実践的な内容を学びました。ホームステイでは、日常会話にどっぷり浸かり、アメリカのみならずブラジルや韓国の話も聞けてとても新鮮でした。会話のあまりの速さと予想外に挟まれるジョークについていくのに必死でしたが、韓国、トルコ、ブラジルなどの英語を母国語としない人達とも会話することができ、英語の持つ威力を痛感しました。ビーチでのサイクリング、野生のアザラシやペ

リカン、巨大なスーパーなど現地の生活も満喫できました。

知らない人に英語で話しかける度胸を得たこと、英語が可能にしてもらえることの大きさを実感したこと、英語をツールにするために必要な練習方法やスキルを学べたことが、今回の研修で得られた貴重な成果です。



授業風景

私の大学生活について

医学部保健学科看護学専攻1年

小松 瑞穂

東北大学に入学してもう一年が経とうとしています。4月に仙台に引っ越してきて一人暮らしがスタートし、最初は新生活にとっても不安を感じていましたが、徐々に慣れてくると毎日があつという間です。ここでは、この一年を振り返ってみようと思います。

まずは、学習面についてです。1年生の授業の大半は川内キャンパスでの全学教育科目ですが、保健学科は1年生から専門科目の授業もスタートします。看護学原論という授業では、看護学の専門書を読み、「看護」の本質についてグループでディスカッションしたり、解剖学の授業で解剖実習の見学に行ったりしました。まだ専門科目の授業数は少ないですが、

内容は本格的です。こうした授業を受けていると高校の時から憧れていた医学・看護の道に自分も近づいているのだと



実感できます。そしてこれから初めての病院実習もあります。実習用ではありますが、ちゃんとナース服をきて病棟を見学するという事なので、いまから楽しみです。

次に、部活動についてです。私は医学部の運動部に所属しています。私の所属する部活は、学年関係なく仲が良く、週3回の練習は大変なこともあります。楽しく活動しています。先輩たちからは、授業のことや病院での実習の話聞くこともできるので、すごくためになっています。また、定期戦を通して、他大学の人も交流を持つことができました。年齢や価値観の違う人たちとの関わりというのは、将来看護師として患者と接する上で、必ず役立つと思います。こうした様々な人との関わりの中で自分をより成長できるようにしていきたいと思っています。

2年生になるとより一層専門的な授業が増えて、大変なことも多くなると思いますが、勉強や部活動、プライベートも充実したものになりたいです。友達と旅行の計画をしているのでいろいろな所に行って、いろいろな経験をして思い出をたくさん作りたと思います。

東北大学に入学して

東北大学に入学してから早一年が経とうとしています。入学当初は慣れないことばかりで不安でいっぱいでしたが、今では大学生生活にすっかり慣れ、充実した大学生活を送っています。

大学の授業は、高校とは違い自分で選ぶことができます。また、1年次から専門科目が少しずつ始まります。これも今までの勉強とはかなり異なり、医学についてとても深く学ぶことができます。私はまだほんの入り口ですが、これからはほとんど専門科目になります。自分がとても興味のある分野ばかりになるので、これからがとても楽しみです。

また、東北大学はいろんな人がいろんな場所から集まります。サークルも部活も豊富にあり、盛んに活動しています。大学に入ってたくさんの人と触れ合い、自分の視野がかなり広がったと思います。自分のやりたいことやしたい活動が自らの選択で

医学部保健学科放射線技術科学専攻1年

穴戸 梨紗



することができるのです。

それから自分の時間も高校に比べてかなり増えます。その時間をどう使うかは人それぞれですが、私はその時間を使ってアルバイトをしています。私は予備校で受験生のサポートをしたり勉強を教えたりしていますが、生徒さん達と触れ合ったり職員さんと仕事をしたりすることで今まで知らなかった社会の知識を学ばせてもらっています。

これから社会に出てちゃんとした大人として働いて行く中で重要なことを学び、外見も内面も自分を磨いていこうと思います。

これから先、専門科目が増え勉強も難しくなり一段と勉強するようになります。その勉強と両立して、大学生の特徴であるたくさんの自由時間を使って今しかできない旅行や友達との思い出をいっぱい作りたと思います。

私の大学生活について

医学部保健学科検査技術科学専攻3年

郷右近 秀平

本当に早いもので大学に入学してから3年が経ちました。特に3年生になってから、ものすごい速さで月日は流れていきました。それだけ充実した大学生活を送れているのではないかと思います。

3年生になると授業はすべて専門的な科目になります。今、学んでいることが臨床検査技師の仕事に繋がっているのもしっかり知識を身につけたいです。

また、平日はほとんど毎日、学内実習があります。学内実習では実際に尿の検査を行ったり、学生同士で採血の練習をして、その血液を顕微鏡で観察します。微生物学の実習では細菌の培養や薬剤感受性の検査をしました。自分が臨床検査技師の道を進んでいることを改めて実感できます。

また、微生物実習のまとめとして、小学校へ行ってキッズ感染セミナーというものをやってきました。大学生が小学生に身近な微生物や手洗いの意義と方法、グラム染色について説明しました。後日、小学生から感謝の手紙をもらったときはとても嬉しかったです。



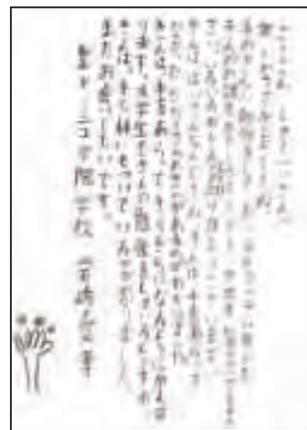
長期休暇には河原でバーベキューをするなど検査技術科学

のメンバーは仲がいです。冬には泊まりがけの忘年会が企画されているのでとても楽しみです。

また、仲が良い友達とレンタカーを借りて秋田の大曲の花火大会を見に行き、そこから青森と岩手を旅行しました。このようなことは大学の長期休暇にしかできないことだと思います。

3年生になり本格的に大学を卒業してからの進路について考えなければならない時期になりました。病院へ就職、企業へ就職、大学院へ進学など様々な進路があります。大学院の入試に向けて勉強を始める人もいれば、企業の説明会に参加する人もいて、どの進路を選択するかまだ迷っている私は不安になります。先生方からアドバイスを頂いたりすることで、自分はどの進路に進みたいのかをしっかりと考えて後悔しないような進路を選択したいです。

残り少ない大学生活を1日1日大切に過ごしていきたいです。



東北大学と地域医療： 新たに設定された修学支援制度について

東北大学医学部医学科長

柴原 茂樹

東北大学医学部は「研究第一主義」を理念に、研究を通して世界の医学・医療の向上に貢献することを目標としています。同時に、地域医療への貢献にも力を入れています。

そこで、医学部医学科は、地域医療における次世代リーダーの養成を目的として、平成21年度に10名、平成22年度に7名、平成23年度に1名の計18名の定員増を行いました。

従って、平成23年度の医学科入学者定員は120名（研究医養成枠2名を含む）になります。定員増に伴い、宮城県と協力し、意欲的な学生のキャリア形成と卒業後教育を支援するために、3年次学生を対象にした修学支援制度を設定しました。なお、「地域」とは僻地や離島を意味するものではありません。医療現場はまさにそれぞれの地域に在り、優れた臨床能力は地域医療現場で育まれると考えています。

この度、新規に設立された宮城県医学生修学資金制度（東北大学枠）では、3年次学生を対象に、6年次までの4年間に亘り修学資金（月額10万円）が貸与されます（募集人員10名）。すなわち、1-2年次に地域医療に関する教育を受け、基礎医学と医療の現状をある程度理解した後に、同制度に応募することになります。返還免除の条件は、卒業後8年以内に4年間、宮城県指定の自治体病院に勤務（初期研修期間を含む）することです。なお、宮城県が指定する自治体病院とは、各地域における中核病院であり、初期研修医に対する指導体制は勿論のこと、医療設備も整っています。事実、毎年、医学科卒業生の約30%が初期研修先として宮城県内の病院を選択しています。

さらに、2年を限度として、東北大学病院での研修、あるいは東北大学大学院在学期間も年数に加算されます。例えば、宮城県指定病院で2年間の初期研修を終えた修学資金受給生が、東北大学病院あるいは大学院にて、専門医資格あるいは学位（博士号）を取得する進路を選択すると、修学資金の返還が免除されることとなります。すなわち、本修学資金制度では、優秀な学生を本学・国内のみならず国際社会で活躍

きる人材に育成することを目的としています。

そこで、宮城県医学生修学資金制度（東北大学枠）を説明するため、去る、平成23年1月13日（木）、平成21年度入学者（現2年次学生）を対象に、村井 嘉浩宮城県知事による地域医療セミナーが開催されました。（写真参照）

本年4月には、同修学資金制度の第一期生として、現2年次学生から10名を募集します。セミナー開催後のアンケート調査では、48名の学生が「修学資金制度に関心がある」、41名が「応募を検討したい」との結果でした。

一方、将来の進路が制限されると懸念される保護者の皆様あるいは学生諸君も多いと拝察しています。しかし、上述のように、本修学資金制度では、意欲ある学生のキャリア形成と卒業後教育を重視しており、本学のみならず、日本の医学界あるいは国際社会における次世代リーダーを育成することを目的としています。従って、他の多くの奨学金制度と異なり、保護者の収入（家計基準）による申請制限はありません。すなわち、平成21年度入学の意欲的な学生であれば、誰でも本修学資金制度に申請することができます。

医学科の教員を代表して、現2年次学生諸君が奮って本修学資金制度に応募してくれることを願っています。保護者の皆様からも、本修学資金制度に応募するよう勧めて頂ければ幸いです。今後とも、学生支援へのご協力・ご支援方よろしくお願い申し上げます。

追記：

平成22年度の入学者（現1年次学生）は、本修学資金制度の第二期生として、平成24年度に17名を募集します。同様に、平成23年度の入学者は、3年次となる平成25年度に18名を募集することとなります。



村井宮城県知事からのメッセージ



卒業生からの体験談

医学部後援会主催「入学記念祝賀会」参加への御案内

平成23年4月に医学部(医学科・保健学科)に入学する新入生及び保護者を対象とした「入学記念祝賀会」を開催いたします。

当日は、在学中の勉学や学生生活などの様子について医学部教職員及び在学生との懇談もあります。

つきましては、後援会会員の皆様におかれましては、後援会入会後の会員同士が集う良い機会と思われるので、会員同士お問い合わせのうえ、是非御出席くださるようお待ちしております。



☆ 日時:平成23年4月6日(水) 午後1時30分から

☆ 会場:江陽グランドホテル
仙台市青葉区本町2丁目3-1
TEL:022-267-5111

☆ 祝賀会の主な内容

- 医学部長挨拶
- 後援会会長挨拶
- 来賓等の紹介・祝辞
- 祝宴・懇談
- 医学科・保健学科の紹介・説明 など
- 在学生から歓迎挨拶

☆ 会費:無料です。

☆ その他:軽食を準備しておりますので、昼食を摂らずに参加願います。
:事前のお申込みは不要です。

医学部後援会事務局



編集後記

医学部後援会が発足しまして、丸3年が経過しようとしております。

初年度(平成20年度)は、新入生保護者及び在学生保護者合わせて300名以上の皆様から会員に御加入いただきました。また、二年目(平成21年度)も新入生保護者200名以上の皆様から会員に御加入いただきました。三年目(平成22年度)の今年度は加入者が200名を下回ってしまい、これからの後援会活動に少し不安が残りました。

多数の皆様から後援会会費の御協力・御理解をいただきましたことを厚くお礼申し上げます。

後援会の三年間における活動については、4月初旬の入学記念祝賀会の開催、入学直後の新入生オリエンテーション開催への助成、7月下旬に開催されたオープンキャンパスへの助成、学生用の図書整備への助成、学生課外活動への助成、3月下旬の卒業謝恩会への助成など諸事業を行いました。

これらに対する事業の報告については、その都度、後援会会報に掲載しておりますのでご覧いただければ幸いです。

今後は、医学科及び保健学科で開催されます様々な行事への助成、学生の教育活動支援及び教育に要する諸設備補充などを行い、医学部全体の充実をより一層図っていただけるようにしたいと思います。また、新入生や在学生を対象にした行事

に対しても助成する予定でおります。

本後援会では、医学部学生が学業だけではなく、クラブ活動やサークル活動にも積極的に参加し大学生活でしか体験できないような機会をできるだけ多く積み重ねることができるよう支援できればと願っております。

なお、医学部後援会のさらなる発展・充実のために、会員の皆様の寄稿をお待ちしております。

後援会事務局あて、郵送又は電子メールでも結構ですので、御寄稿して下さいますようお願いいたします。

仙台七夕まつり



写真提供:仙台市観光交流課

吹き流しや仕掛けものなどの趣向を凝らした竹飾りが街を色鮮やかに彩る「東北三大まつり」のひとつ。毎年8月5日は前夜祭の花火大会が行われ、本祭は6~8日開催される。



東北大学医学部後援会事務局

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町2-1
TEL:022-717-7870 E-mail: med-koen@med.tohoku.ac.jp
http://www.koen.med.tohoku.ac.jp/